

## 【09.3期決算説明資料】

金融危機の足もと業績への影響を最小限にとどめ、  
堅調なエネルギー関連製品を柱に、更なる企業価値向上を目指す

— 経営の基本に立ち返り、『減り張りのある経営』を推進 —

株式会社日本製鋼所  
代表取締役社長 永田昌久

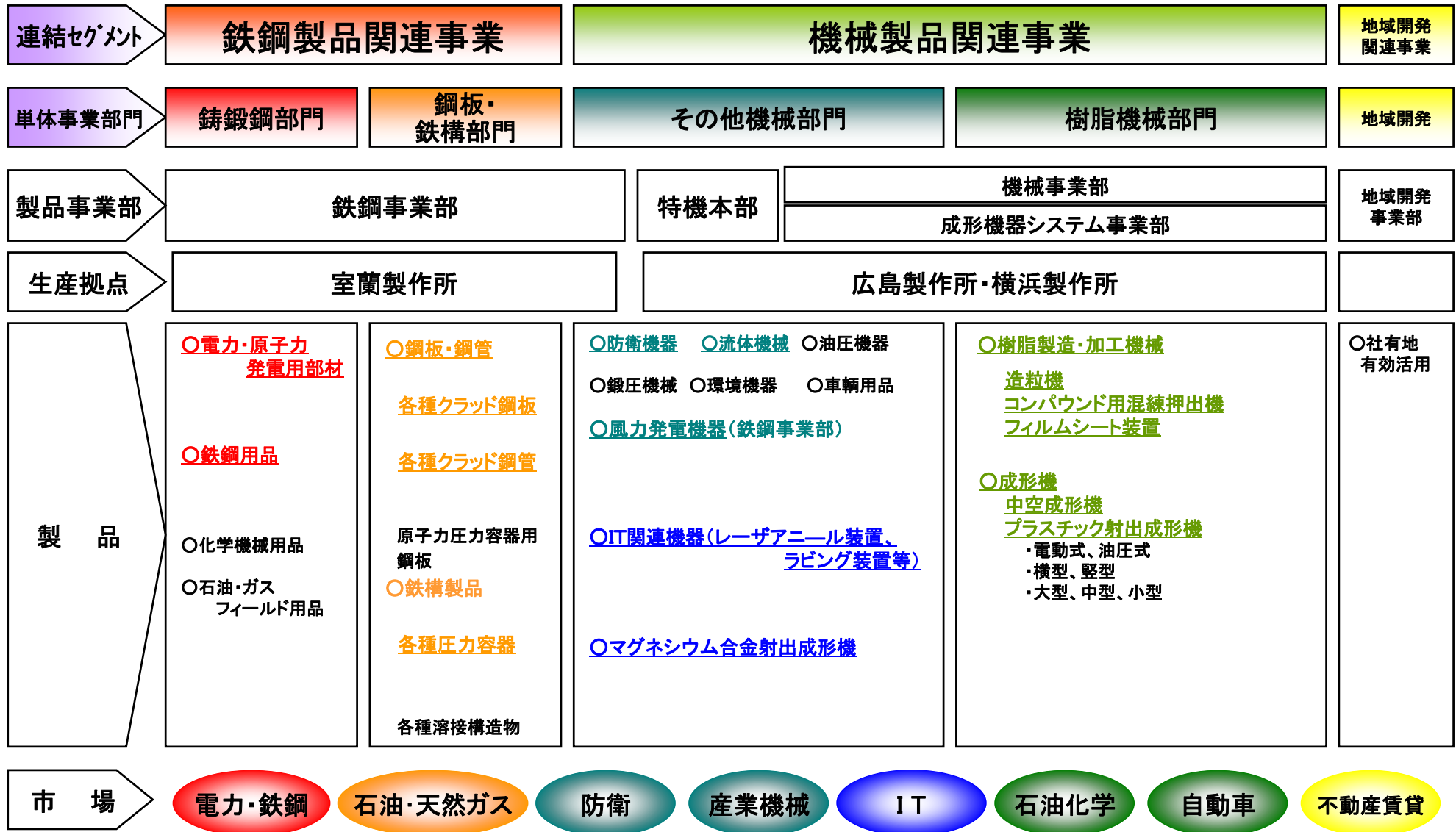
2009年5月22日

ホームページURL : <http://www.jsw.co.jp>  
お問い合わせ先: 経営企画室広報グループ  
TEL: 03-5745-2012 FAX: 03-5745-2021

# 目次

目次		
事業部門の構成と当社製品群		
<b>第1部 09.3期決算</b>		
(1) 09.3期決算	P1	<b>第3部 各事業部門の業況・見通し</b> P26
(2) セグメント別連結売上高・営業利益の状況	P2	(1) 鑄鍛鋼部門 P27
(3) 鉄鋼製品関連事業の業績(売上高・営業利益)	P3	(2) 鋼板・鉄構部門 P28
(4) 機械製品関連事業の業績(売上高・営業利益)	P4	(3) 樹脂機械部門 P29
(5) セグメント別連結受注高の状況	P5	(4) その他機械部門 P30
(6) 鉄鋼製品関連事業の業績(受注高)	P6	
(7) 機械製品関連事業の業績(受注高)	P7	<b>補足資料</b>
(8) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書	P8	
(9) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)	P9	
	P10	
	P11	
	P12	
<b>第2部 10.3期業績予想</b>	P13	
(1) 10.3期事業計画	P14	
(2) 10.3期計画	P15	
(3) セグメント別連結売上高・営業利益の状況	P16	
(4) 鉄鋼製品関連事業の業績(売上高・営業利益)	P17	
(5) 機械製品関連事業の業績(売上高・営業利益)	P18	
(6) セグメント別連結受注高の状況	P19	
(7) 鉄鋼製品関連事業の業績(受注高)	P20	
(8) 機械製品関連事業の業績(受注高)	P21	
(9) 営業利益変動要因分析	P22	
(10) 受注高と受注残高の推移	P23	
(11) 設備投資(含むリース)・減価償却費・研究開発費の推移	P24	
(12) 鉄鋼製品関連事業での大型設備投資の状況	P25	

# 事業部門の構成と当社製品群



# 第1部 09.3期決算

# (1)09.3期決算

## 1. 連結損益の状況

(単位:億円)

	08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
売上高	2,208	2,380	2,271	95.4	102.9
営業利益 (率)	324 14.7 %	358 15.0 %	366 16.1 %	102.2	113.0
経常利益	308	350	359	102.6	116.6
当期純利益	175	195	160	82.1	91.4
一株当たり 当期純利益	47.10 円	52.53 円	43.19 円	82.2	91.7

金融危機の影響を受け、機械製品  
が前回予想比96億円の減。

## 2. 単体損益の状況

(単位:億円)

	08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
売上高	1,893	2,060	1,960	95.1	103.5
営業利益 (率)	297 15.7 %	333 16.2 %	345 17.6 %	103.6	116.2
経常利益	283	330	341	103.3	120.5
当期純利益	158	185	154	83.2	97.5
一株当たり 当期純利益	42.77 円	49.84 円	41.62 円	83.5	97.3
普通配当金	12.0 円	12.0 円	12.0 円	0.0 円	0.0 円

投資有価証券評価損等の計上に  
より前回予想比35億円減少。

※ 本資料の『前回予想』は、平成20年11月4日開示の数値を使用しています。

## (2)セグメント別連結売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
鉄鋼製品	売上高	926	1,090	1,078	98.9	116.4
	営業利益	251	288	314	109.0	125.1
機械製品	売上高	1,261	1,270	1,174	92.4	93.1
	営業利益	132	130	114	87.7	86.4
地域開発	売上高	20	20	17	85.0	85.0
	営業利益	6	7	7	100.0	116.7
消去又は配分不能費用		△ 66	△ 67	△ 70	104.5	106.1
合計	売上高	2,208	2,380	2,271	95.4	102.9
	営業利益	324	358	366	102.2	113.0

### 09.3期のレビュー(前回予想との比較)

- ①鉄鋼製品関連事業では、売上高は前回予想並みを確保。操業度の向上・コスト削減等により、営業利益は前回予想比26億円増加。
- ②機械製品関連事業では、自動車産業を中心とする設備投資凍結の動きにより成形機が、大口顧客の設備計画延期によりIT関連機器がそれぞれ前回予想比売上減少。これに伴い、営業利益は前回予想比16億円減少。

### (3) 鉄鋼製品関連事業の業績(売上高・営業利益)

(単位:億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
鑄鍛鋼 単体	電力・原子力	313	377	365	96.8	116.6
	その他	98	103	100	97.1	102.0
	計	411	480	465	96.9	113.1
鋼板・鉄構 単体	圧力容器類	141	215	219	101.9	155.3
	クラッド鋼板・鋼管	313	350	349	99.7	111.5
	その他	9	2	2	100.0	22.2
	計	463	567	570	100.5	123.1
連結会社他		52	43	43	100.0	82.7
合計売上高		926	1,090	1,078	98.9	116.4
営業利益		251	288	314	109.0	125.1

豊富な受注残高に支えられ、  
前回予想並みの売上を確保。

操業度の向上・コスト削減等により、  
営業利益は前回予想比26億円増加。

## (4) 機械製品関連事業の業績(売上高・営業利益)

(単位: 億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
樹脂機械 単体	樹脂製造・加工	302	380	369	97.1	122.2
	成形機	346	300	272	90.7	78.6
	計	648	680	641	94.3	98.9
その他機械 単体	風力発電機器	41	18	18	100.0	43.9
	その他	314	300	250	83.3	79.6
	計	355	318	268	84.3	75.5
連結会社他		258	272	265	97.4	102.7
合計売上高		1,261	1,270	1,174	92.4	93.1
営業利益		132	130	114	87.7	86.4

自動車産業における設備投資の冷え込みにより前回予想を下回る。

IT関連機器はパネルメーカー各社の業績悪化の影響を受け前回予想未達。



## (5)セグメント別連結受注高の状況

(単位:億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
鉄鋼製品	受注高	1,180	1,197	1,200	100.3	101.7
機械製品	受注高	1,444	1,485	1,186	79.9	82.1
地域開発	受注高	20	20	17	85.0	85.0
合計	受注高	2,644	2,702	2,404	89.0	90.9

金融危機の影響を受け機械  
製品の受注が急減。

## (6) 鉄鋼製品関連事業の業績(受注高)

(単位: 億円)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
鑄鍛鋼 単体	電力・原子力	427	498	599	120.3	140.3
	その他	115	95	103	108.4	89.6
	計	542	593	702	118.4	129.5
鋼板・鉄構 単体	圧力容器類	234	230	197	85.7	84.2
	クラッド鋼板・鋼管	350	325	251	77.2	71.7
	その他	2	5	7	140.0	350.0
	計	586	560	455	81.3	77.6
鑄鍛鋼、鋼板・鉄構 計		1,128	1,153	1,157	100.3	102.6
連結会社他		52	44	43	97.7	82.7
合計受注高		1,180	1,197	1,200	100.3	101.7

受注の前倒しと計画外案件の取り込みにより、前回予想比増加。

クラッド鋼板が減少。

## (7) 機械製品関連事業の業績(受注高)

		08.3 実績 (A)	09.3 前回予想 (B)	09.3 実績 (C)	前回予想比 (%) (C)/(B)	前期比 (%) (C)/(A)
						(単位: 億円)
樹脂機械 単体	樹脂製造・加工	403	370	258	69.7	64.0
	成形機	338	270	182	67.4	53.8
	計	741	640	440	68.8	59.4
その他機械 単体	風力発電機器	142	210	217	103.3	152.8
	その他	302	352	238	67.6	78.8
	計	444	562	455	81.0	102.5
樹脂機械・その他機械合計		1,185	1,202	895	74.5	75.5
連結会社他		259	283	291	102.8	112.4
合計受注高		1,444	1,485	1,186	79.9	82.1

予定案件の計画見直し及び延期により前回予想比3割減少。

需要の急減により前回予想比3割超減少。

## (8) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

連結貸借対照表

(単位:億円)				(単位:億円)			
	08.3 実績 (A)	09.3 実績 (B)	対前年 実績差異 (B)-(A)		08.3 実績 (C)	09.3 実績 (D)	対前年 実績差異 (D)-(C)
流動資産	1,686	1,742	56	流動負債	1,363	1,348	△ 15
固定資産	937	1,226	289	固定負債	409	719	310
資産合計	2,624	2,969	345	純資産	852	901	49
				負債及び 純資産合計	2,624	2,969	345

連結キャッシュフロー計算書

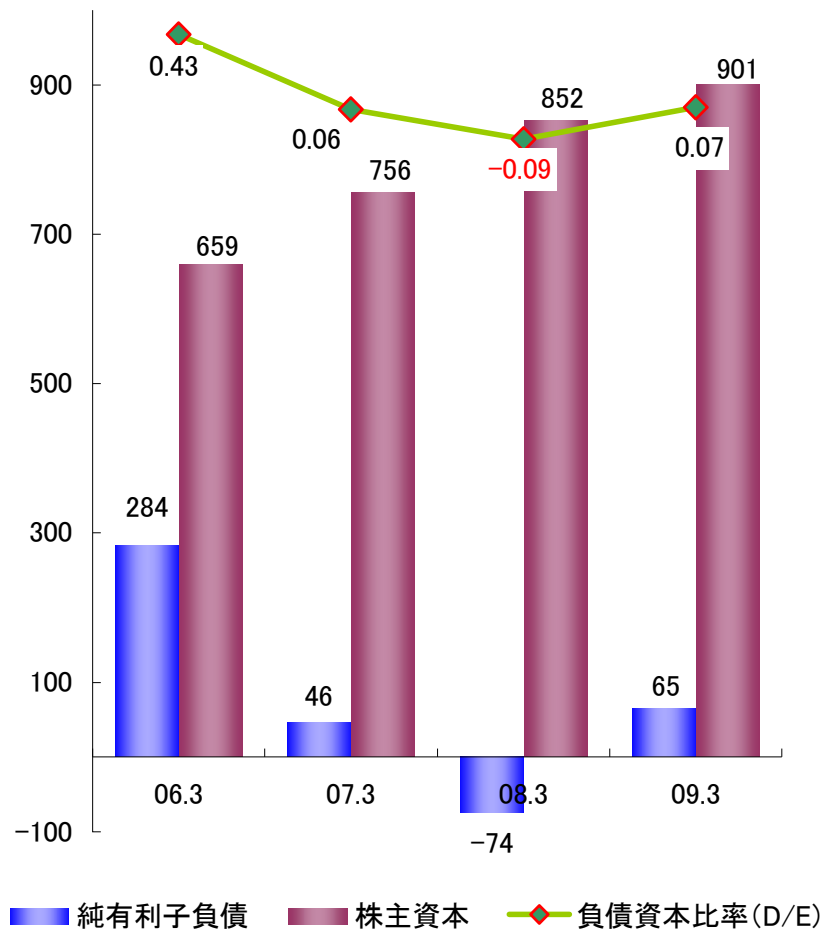
(単位:億円)			
	08.3 実績 (A)	09.3 実績 (B)	対前年 実績差異 (B)-(A)
営業活動 キャッシュフロー	420	263	△ 157
投資活動 キャッシュフロー	△ 248	△ 331	△ 83
計	172	△ 68	△ 240
財務活動 キャッシュフロー	△ 85	106	191
現金及び現金同等物の 期末残高	361	399	38

参考

	08.3 実績	09.3 実績	対前年 実績差異
自己資本比率	32.4	30.3	-2.1
1株当り純資産	228.9	242.1	13.2

## (9) 財務体質の状況(純有利子負債の推移)(連結)

(単位:億円)



- 09.3期末の有利子負債残高は、前期比178億円増の464億円。
- 株主資本は利益の増加により前期比49億円増加し901億円となる。
- 設備投資に対応し高水準の手許現預金を維持するため、200億円の長期借り入れを実施。

	期末	06.3	07.3	08.3	09.3
キャッシュフロー 対有利子負債比率(倍)		8.0	0.9	0.7	1.8
インタレストカバレッジレシオ (倍)		7.1	47.8	92.0	60.6
有利子負債EBITDA倍率(倍)		2.8	1.1	0.7	1.0

有利子負債(A)	469	320	286	464
現預金残高(B)	185	275	360	399
純有利子負債 (A)-(B)	284	46	△ 74	65

## 第2部 10.3期業績予想

# (1) 10.3期事業計画

新たな中期経営計画の策定は見合わせ、単年度の事業計画を着実に推進

更なる企業価値の向上を目指し、「減り張りのある経営」「コスト削減による損益分岐点の引下げ」に取り組む  
電力・原子力の需要高まりに変化は無く、大型設備投資を継続実施

## 重点推進項目

製品と設備投資の徹底した  
コスト削減

トップシェア製品の拡大と  
技術・技能の進展

人材の確保と  
教育を通しての育成

CSRの推進(社会的責任の遂行)

安全の確保(職場災害の防止)と  
品質の向上

## セグメント別重要取組事項

### 鉄鋼製品関連事業

- ① 室蘭製作所で実施中の大規模設備投資は、製品別需要動向の変化に従い、減り張りをつけて遂行
- ② 電力・原子力、石油精製用圧力容器等エネルギー関連製品の更なる受注拡大

### 機械製品関連事業

- ① 樹脂製造・加工機械、成形機等の中国をはじめとする新興国での需要の取り込み
- ② 風力発電機器の一層の拡大と収益力の強化、IT関連機器の拡大と同開発製品の早期立ち上げ

## 数値目標

売上高: 2,170億円

営業利益: 280億円

経常利益: 270億円

当期純利益: 155億円

純有利子負債残高: 334億円

## (2) 10.3期計画

### 1. 連結損益の状況

(単位: 億円)

	08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
売上高	2,208	2,271	2,170	95.6
営業利益 (率)	324 14.7 %	366 16.1 %	280 12.9 %	76.5
経常利益	308	359	270	75.2
当期純利益	175	160	155	96.9
一株当たり 当期純利益	47.10 円	43.19 円	41.76 円	96.7

売上高・営業利益・経常利益共に過去最高

設備投資に伴う固定資産の廃却、投資有価証券評価損等の計上により前期比8%減少

機械製品の営業利益減少が響く。

### 2. 単体損益の状況

(単位: 億円)

	08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
売上高	1,893	1,960	1,920	98.0
営業利益 (率)	297 15.7 %	345 17.6 %	268 14.0 %	77.7
経常利益	282	341	260	76.2
当期純利益	158	154	150	97.4
一株当たり 当期純利益	42.77 円	41.62 円	40.40 円	97.1
1株当たり配当金	12.0 円	12.0 円	12.0 円	0.0 円



### (3) セグメント別連結売上高・営業利益の状況

(単位: 億円)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
鉄鋼製品	売上高	926	1,078	1,080	100.2
	営業利益	251	314	310	98.7
機械製品	売上高	1,261	1,174	1,073	91.4
	営業利益	132	114	32	28.1
地域開発	売上高	20	17	17	100.0
	営業利益	6	7	7	100.0
消去又は配分不能費用		△ 66	△ 70	△ 69	98.6
合計	売上高	2,208	2,271	2,170	95.6
	営業利益	324	366	280	76.5

売上高・営業利益共に大幅伸長。

電力・原子力を中心とした豊富な受注残に支えられ、前期並みの売上・営業利益を確保。

樹脂製造・加工機械は伸長したが、成形機・IT関連機器の減少により前期を下回った。

風力発電機器は大幅に伸長するも、樹脂機械の落ち込みが響く。

## (4) 鉄鋼製品関連事業の業績(売上高・営業利益)

(単位: 億円)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
鑄鍛鋼 単体	電力・原子力	313	365	455	124.7
	その他	98	100	85	85.0
	計	411	465	540	116.1
鋼板・鉄構 単体	圧力容器類	141	219	265	121.0
	クラッド鋼板・鋼管	313	349	210	60.2
	その他	9	2	20	1000.0
	計	463	570	495	86.8
連結会社他		52	43	45	104.7
合計売上高		926	1,078	1,080	100.2
営業利益		251	314	310	98.7

金融危機の影響を受けず伸長。

10.3期売上分は  
全て受注済み。

引き続き好調に推移し、  
前期比25%増加。

豊富な受注残に支えられ、前期  
比55%(78億円)増の219億円。

操業度の向上・コスト削減等により、  
営業利益は前期比63億  
円増加。

中東の淡水化、石油精製、  
石油化学案件の延期が響く。

前期並の営業利益  
を確保。

## (5) 機械製品関連事業の業績(売上高・営業利益)

(単位: 億円)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
樹脂機械 単体	樹脂製造・加工	302	369	245	66.4
	成形機	346	272	110	40.4
	計	648	641	355	55.4
その他機械 単体	風力発電機器	41	18	265	1472.2
	その他	314	250	250	100.0
	計	355	268	515	192.2
連結会社他		258	265	203	76.6
合計売上高		1,261	1,174	1,073	91.4
(営業利益)		132	114	32	28.1

豊富な受注残により  
売上は伸長。

設備投資の延期等により  
減少。

金融危機の影響を受け  
需要低下。回復は11.3  
期以降を予想。

市場の急激な縮小を受け、  
比較的短納期の成形機が  
減少。

樹脂機械の売上減少  
に伴う利益減。

本格量産と出荷の  
開始により売上拡大。

## (6)セグメント別連結受注高の状況

(単位: 億円)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
鉄鋼製品	受注高	1,180	1,200	1,140	95
機械製品	受注高	1,444	1,186	1,299	110
地域開発	受注高	20	17	17	100
合計	受注高	2,644	2,404	2,456	102

クラッド鋼板の落ち込みと石油精製用圧力容器の減少を電力・原子力の伸長でカバー。

主に石油精製用圧力容器の受注減少による。

樹脂製造・加工機械における顧客計画見直し及び延期と、成形機の需要急減により減少。

風力発電機器の受注が好調、機械製品の受注高を押し上げる。

## (7) 鉄鋼製品関連事業の業績(受注高)

(単位: 億円)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
鑄鍛鋼 単体	電力・原子力	427	599	580	96.8
	その他	115	103	105	101.9
	計	542	702	685	97.6
鋼板・鉄構 単体	圧力容器類	234	197	140	71.1
	クラッド鋼板・鋼管	350	251	270	107.6
	その他	2	7	0	0.0
	計	586	455	410	90.1
連結会社他		52	43	45	104.7
合計受注高		1,180	1,200	1,140	95.0

電力・原子力製品は金融危機の影響を受けず、引き続き伸長。

電力・原子力製品の需要は高水準が続くと予想。

クラッド鋼板が減少。

石油精製用圧力容器は、金融不安による資金不足、原油価格下落、ユーロ安により受注環境が悪化。

クラッド鋼板は10.3下期からの回復を予想。

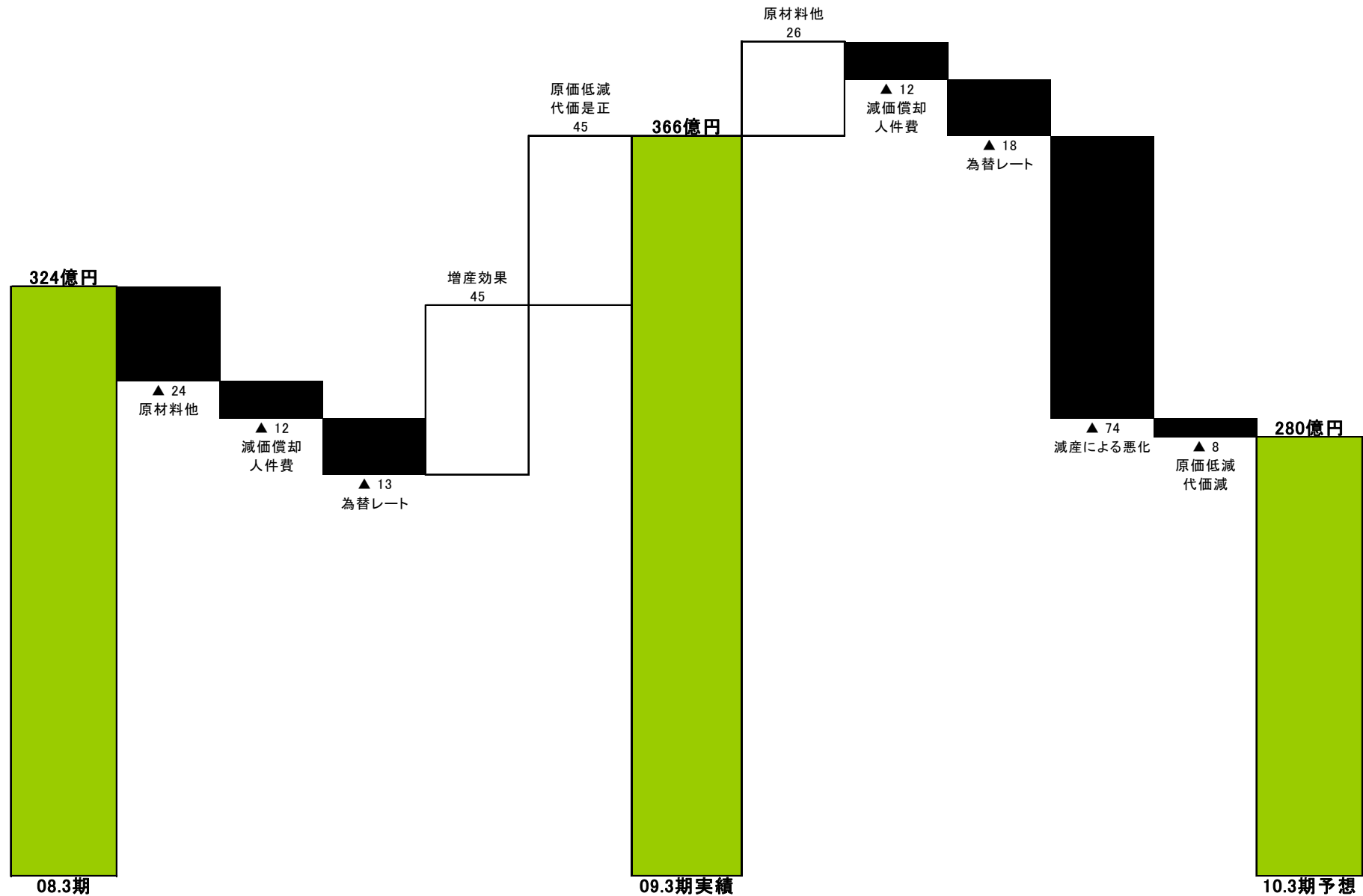
## (8) 機械製品関連事業の業績(受注高)

		08.3 実績	09.3 実績 (A)	10.3 予想 (B)	前期比 (%) (B)/(A)
					(単位: 億円)
樹脂機械 単体	樹脂製造・加工	403	258	340	131.8
	成形機	338	182	115	63.2
	計	741	440	455	103.4
その他機械 単体	風力発電機器	142	217	335	154.4
	その他	302	238	300	126.1
	計	444	455	635	139.6
連結会社他		259	291	209	71.8
合計受注高		1,444	1,186	1,299	109.5

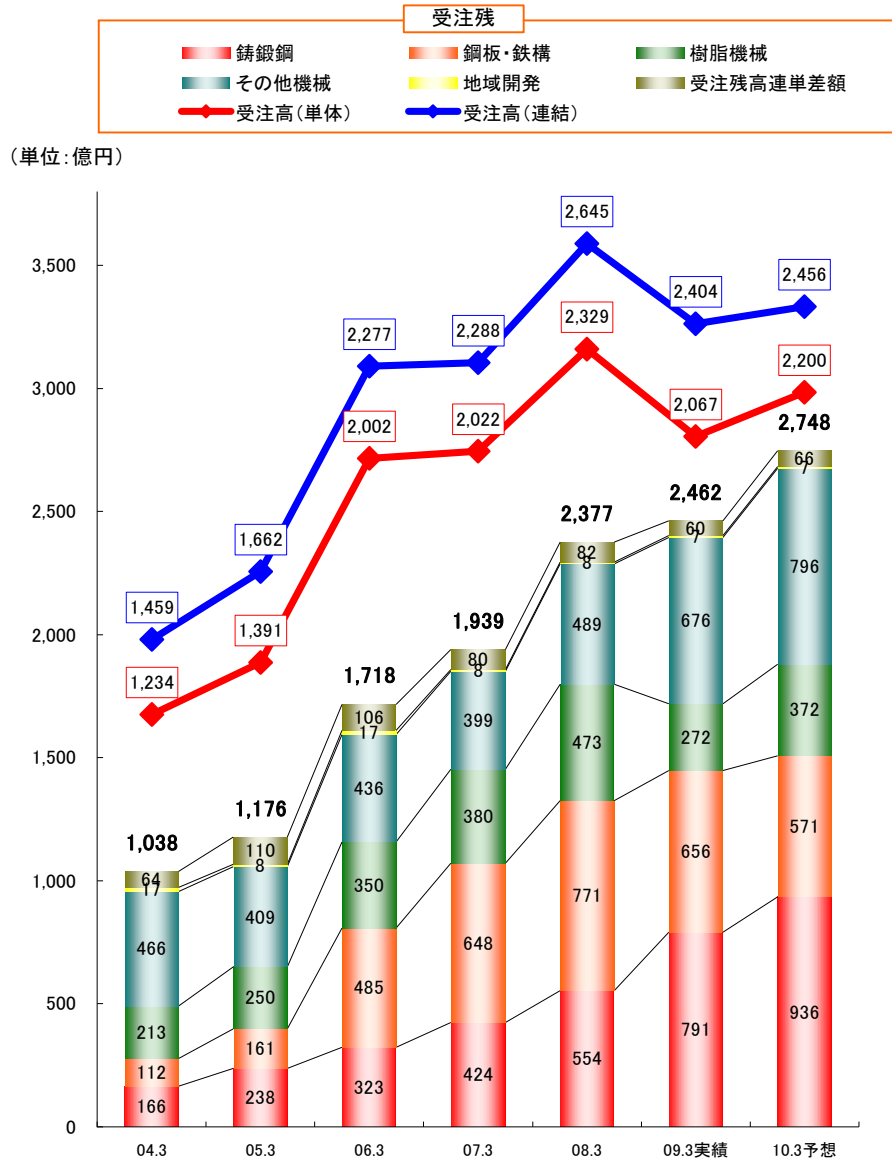
需要の急減により前期比156億円減少。  
予定案件の計画見直し及び延期により前期比145億円減少。  
中国の景気刺激策により同国向け案件が4月以降に活発化。  
下期以降、徐々に受注回復と想定。

自社開発した風力発電機が好評。

# (9) 営業利益変動要因分析



# (10) 受注高と受注残高の推移



## 09.3期の状況 (受注残高)

全体: 前期比85億円(4%)増加の2,462億円。

### (1) 鉄鋼製品関連事業

鋳鍛鋼 : 好調な受注を背景に電力・原子力製品の受注残高が前期比50%増加、全体で前期比237億円の増。

鋼板・鉄構 : クラッド鋼板の受注悪化の他、石油精製用圧力容器の注文取消1件(72億円)の発生もあり、受注残高は前期比115億円減少。

### (2) 機械製品関連事業

樹脂機械 : 樹脂製造・加工機械、成形機共に受注が落ち込み、受注残高は前期比201億円減少。

その他機械 : 主に風力発電機器の好調な受注を受け、前期比187億円増加。

## 10.3期の見込み (受注残高)

全体: 前期比286億円(12%)増加の2,748億円。

### (1) 鉄鋼製品関連事業

鋳鍛鋼 : 原子力製品の受注は好調を持続、前期比145億円の増加を予想。

鋼板・鉄構 : 石油精製用圧力容器の受注減少が響き、全体では前期比85億円の減少を予想。

### (2) 機械製品関連事業

樹脂機械 : 中国市場の活況により樹脂製造・加工機械の受注が増加し、全体では前期比100億円増加を予想。

その他機械 : 風力発電機器は更なる受注増加を見込み、全体では前期比120億円増加を予想。



# (11) 設備投資(含むリース)・減価償却費・研究開発費の推移

製品別の需要動向の変化に対応し、電力・原子力製品増産対応の比重を高めつつ、設備投資は着実に進行中。

(単位: 億円)

	セグメント	05.3	06.3	07.3	08.3	09.3実績	10.3計画
設備投資	鉄鋼製品関連事業	26.6	32.7	73.2	119.3	351.6	340.4
	機械製品関連事業	10.9	21.3	23.4	35.1	33.5	16.4
	地域開発関連事業他	0.7	1.2	5.0	6.2	1.8	0.5
	合計	38.2	55.2	101.6	160.7	386.9	357.3
減価償却費	鉄鋼製品関連事業	17.5	20.3	25.7	58.0	62.8	92.8
	機械製品関連事業	16.8	16.2	16.6	29.9	29.2	28.6
	地域開発関連事業他	8.5	4.6	4.6	4.6	4.2	4.8
	合計	42.8	41.1	46.9	92.5	96.2	126.2
研究開発費	鉄鋼製品関連事業	12.2	10.1	12.4	15.5	15.7	14.4
	機械製品関連事業	18.8	20.1	20.7	18.5	26.1	20.8
	合計	31.0	30.2	33.1	34.0	41.8	35.2

## (12) 鉄鋼製品関連事業での大型設備投資の状況

- ・ エネルギー関連製品の需要増加に対応すべく、08.3期より12.3期にかけ、総額800億円規模の設備投資を実施中。
- ・ 設備投資着工率は、500億円規模の第一期工事は100%、300億円規模の第二期工事は56%に達し、計画通り進行中。

製鋼工場(鉄鋼製品素材である鋼塊の製造工場)の設備投資状況



2008年11月時点



2009年4月末時点

- ・ 本設備投資により、原子力発電向け鍛鋼品の生産能力は、08.3期に比し3倍(12ユニット分)に増強される。
- ・ 石油精製用圧力容器向け鍛鋼品の生産能力を、当初計画では08.3期比1.6倍に引き上げることを予定するも、需要の減少に対応し、その一部を原子力発電向けに振り向ける。

## 第3部 各事業部門の業況・見通し

# (1) 鋳鍛鋼部門: 原子カルネサンスの奔流に乗り、電力・原子力は引き続き伸長

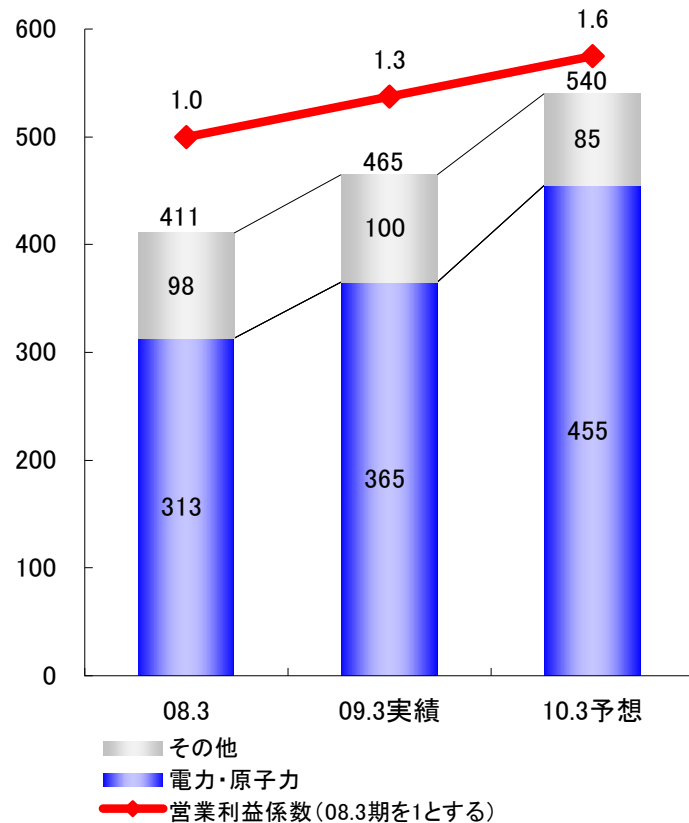
## 10.3期の取り組み

- ① 設備投資計画の着実な実行とコストダウン
- ② 電力・原子力製品のさらなる伸長

## 09.3期の状況

- 電力向けについては、最大の需要国である中国からの注文は堅調であり、今回の金融危機の影響を大きく受けていない。また原子力向けについては、ヨーロッパ諸国における原発回帰の動きを受け、仏AREVAが積極的に活動を展開している他、中国の原発事業各社よりも順次当社生産枠の予約に至っており、需要拡大の兆候が窺える。
- 高水準の受注残高に支えられ、電力・原子力の売上は前期比52億円、17%の増加。受注は前期比172億円、40%の増加と売上を上回る勢いで伸長し、受注残高はさらに積み上がる。将来の発注に対する生産の枠取りも計画を上回るペースですすむ。

売上高(億円)



## 10.3期の計画

- 電力・原子力案件における注文取消・プロジェクト延期の動きはなく、09.3期売上の1.9倍、711億円の受注残高を抱え年度をスタート。
- 豊富な受注残高、堅調な受注を背景に、電力・原子力の売上は前期比90億円、25%の増加を見込む。償却費の負担は増加するも、売上・生産の増加、代価維持・原価低減活動の推進により吸収し、増益基調を維持。
- 受注については、日本・中国の新規プラント案件もあり、原子力向けは好調を継続。電力向けについては、原材料価格の下落に伴う代価引き下げ圧力の強まり、09.3期における前倒し受注の影響が見込まれるも、競争優位を有する大型ローターを中心に底堅い。

## 11.3期の見通し

- 火力発電向け製品では中国市場での欧州企業との競争激化等の懸念材料はあるが、発電所単機出力の大型化と発電の高効率化のため、収益の柱である大型ローターシャフト・開発型12Crローター等の需要は旺盛。また、原子力用の大型ローターシャフトも需要が旺盛であり、電力・原子力製品は10.3期以上の受注額が達成できる見込み。

## (2) 鋼板・鉄構部門: エネルギー関連の大型プロジェクトが進展

### 10.3期の取り組み

- ① 大型プロジェクトの確実な受注
- ② 原子力部材とのセット受注促進
- ③ 購入品を含めたCRの徹底

### 09.3期の状況

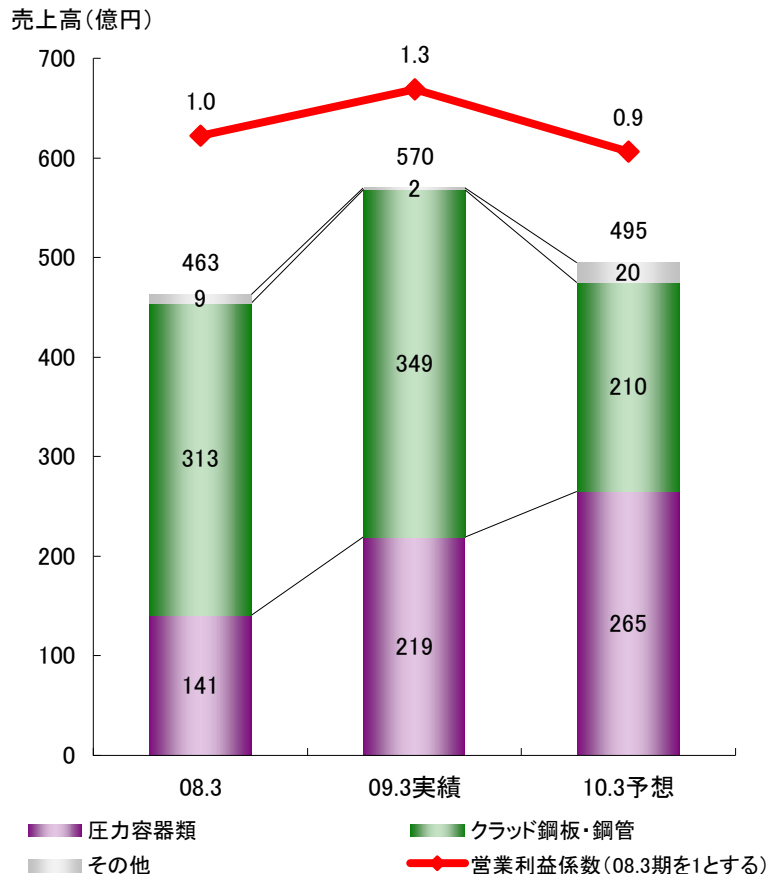
- 石油精製用圧力容器については、原油価格の下落・低迷、円高・ユーロ安による欧州企業との競争激化等、事業環境は悪化。加えてファンド破綻による注文取消も1件発生したが(72億円)、受注は前期比37億円、16%の減少に踏みとどまる。売上は豊富な受注残高に支えられ前期比78億円、55%増加し、増益に大きく寄与。
- 淡水化・石油精製プラント用クラッド鋼板はプロジェクトの延期、円高・ユーロ安の進展の影響が下期より顕在化し減少、天然ガス田パイプライン用クラッド鋼管はほぼ計画通りであったが、合計の受注は前期比99億円、28%の減少。受注が減少するなか売上は増加したため、受注残高は大幅減少。

### 10.3期の計画

- 石油精製用圧力容器は、2年分(10.3期および11.3期)、505億円の受注残高を抱えており、売上についての不安はない。受注については、南米・中東等において大型プロジェクトが動いているが、欧州企業との競合を考慮すると、採算の確保を含め楽観できない状況にある。その成否次第では、12.3期以降の収益への影響が懸念される。
- クラッド鋼板は、少ない受注残高からのスタートを余儀なくされることに加え、受注においても量・価格ともに苦戦が見込まれるため、収益面で厳しい状況が予想される。クラッド鋼管は1年分(10.3期)の受注残高を抱えており、受注についても狙っている大型プロジェクトの進捗次第では上積みが可能である。

### 11.3期の見通し

- 化石燃料に関する需要は、10.3期を底に、11.3期以降は回復すると予測している。特に新興国における石油需要は引き続き増加するとみており、重質油の埋蔵量が多いベネズエラ(オリノコータル)・ブラジル・中東・ロシアにおける開発プロジェクトの進展が期待できる。
- クラッド鋼管はオーストラリア・中東向けに大型案件が控えており、受注は引き続き堅調に推移する見込み。



# (3) 樹脂機械部門：中国の景気刺激策を受け樹脂製造・加工機械案件が急展開

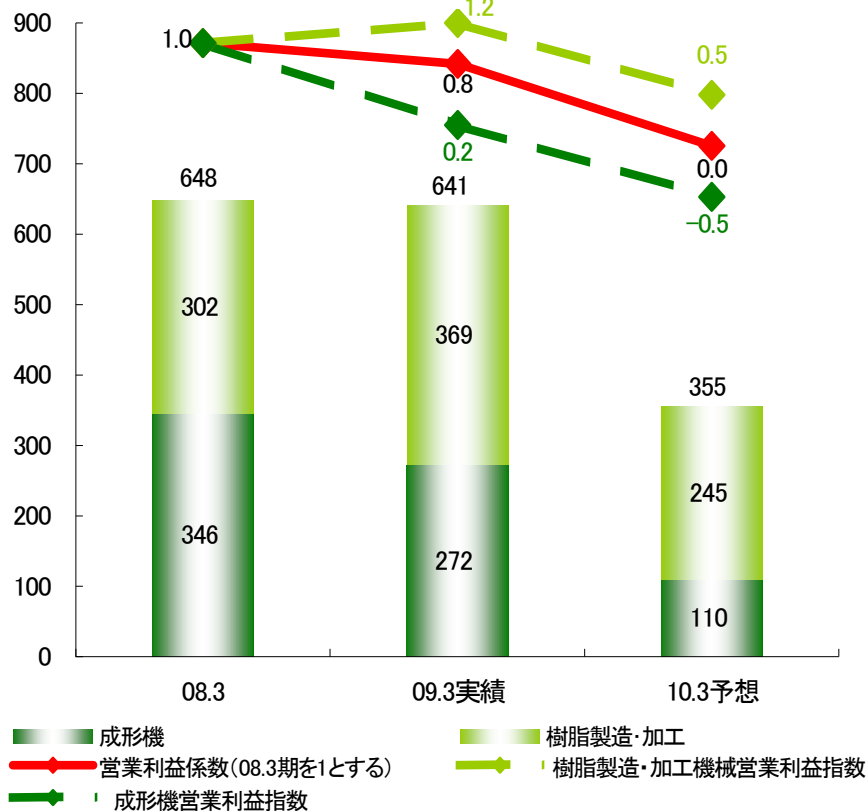
## 10.3期の取り組み

- ① 中国プロジェクトの確実な受注(樹脂製造・加工機械)
- ② 国際ブランド力の確立と差別化製品の拡販(〃)
- ③ 損益分岐点の大幅な引き下げ(成形機)
- ④ 環境・医療等内需関連産業向け受注の取り込み(〃)
- ⑤ グループ・提携企業とのシナジー創出

## 09.3期の状況

- 樹脂製造・加工機械の売上は、豊富な受注残高に支えられ、前期比67億円、22%増加し、増益に寄与した。受注は、年度前半は中国・四川大地震の、後半は金融危機に端を発する設備計画の中止・延期・遅れの影響を被り、前期比145億円、36%の減少と落ち込む。
- 成形機市場は、ここ数年の拡大を牽引してきた自動車産業における設備投資が金融危機を機に止まり、一気に冷え込む。比較的リードタイムの短い成形機の売上はそれまでの受注残高に支えられ、前期比74億円、21%の減少にとどまるが、受注は前期比156億円、46%の減少と大きく落ち込む。

売上高(億円)



## 10.3期の計画

- 樹脂製造・加工機械は、09.3期における受注減少が響き、限られた受注残高からのスタートを余儀なくされる。中国政府が大型の景気刺激策を打ち出したことにより同国向け案件が急展開しており、下期以降で受注面の回復は期待できるもののリードタイムが長いいため10.3期売上への寄与は限定的にならざるを得ないとみている。
- 中国における内需刺激策の同国輸出産業への波及効果は限定的であるとみられるため、日本製成形機市場の急回復は期待できない。国内自動車関連市場も依然不透明であり、成形機については受注・売上ともに、昨年度後半の厳しい状況が10.3期も続くともみている。

## 11.3期の見通し

- 新興国では自国での消費のみならず、輸出による経済成長を目的に、高付加価値の樹脂原料等の生産拡大を継続。樹脂製造・加工機械は、ユーロ安による欧州企業との受注競争の中で差別化・技術力の強化と調達グローバル化を推進し、受注の拡大を図る。
- 成形機では、自動車産業の急回復は期待できないが、新興国を含む各国経済対策の効果が徐々に現れると考えられ、広範な受注の取り込みを図る。また、損益分岐点の引き下げにより身軽な体質を実現し、回復局面に備える。

## (4) その他機械部門：風力発電機器は急成長を持続

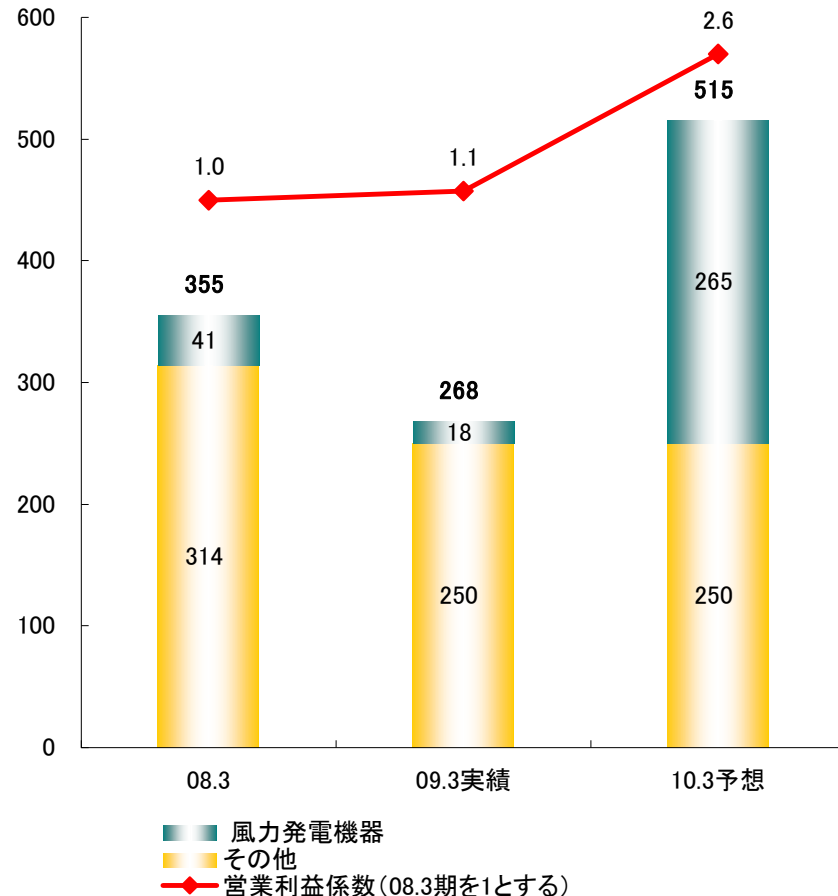
### 10.3期の取り組み

- ① 風力発電機器の運転実績の蓄積を通じた国内シェアの拡大と生産・保守体制の確立
- ② IT関連機器における韓国プロジェクトの確実な受注と開発製品の早期上市
- ③ 防衛大綱及び次期中期防衛力整備計画のフォロー

### 09.3期の状況

- IT関連機器・レーザアニール装置は、年度前半は韓国有力顧客における設備投資凍結の、後半は金融危機の影響による日本・台湾・韓国パネルメーカー各社の業績悪化に伴うプロジェクト延期・注文取消の影響を受けた。マグネシウム合金射出機もノートPC用途にとどまり、合計の受注・売上は前期比減少。
- 風力発電機器の売上は、豊富な受注残高を抱えつつも、建築確認厳格化に伴う客先スケジュールの遅れにより、僅少にとどまる。受注は、国内電力各社における風力発電枠拡大の追い風もあり、前期比75億円、53%の増加。

売上高(億円)



### 10.3期の計画

- 09年の液晶パネル生産額は前年割れが予想されているが、高画質でスリム化・軽量化が容易な低温ポリシリコン技術の中小型パネルへの採用が拡大する見込みであり、また韓国・台湾のパネルメーカーにおける設備稼働率もここに来て上昇しており、IT関連機器・レーザアニール装置の事業環境は改善しつつある。マグネシウム合金射出成形機・アルミダイカストマシンも、新たな分野であり難しさはあるが、自動車用途の受注が期待できる。合計の受注・売上は前期比増加を見込む。
- 風力発電機器では豊富な受注残高を抱え、売上は前期比247億円増加の265億円を見込む。受注は前期比118億円増加の335億円を計画しているが、市場は急速に拡大しており、更に100億円の上積みを目指す。

### 11.3期の見通し

- IT関連機器・レーザアニール装置では、次世代薄型パネルとしての期待が大きいテレビ用有機ELパネルの生産準備が本格化するとみられる。マグネシウム合金射出成形機・アルミダイカストマシンも、自動車用大型機の需要が拡大する見通し。
- 風力発電機器は、国内外メーカーとの競争において不透明さはあるが、現在の競争優位は維持できるとみており、年産150基規模の事業へ成長することが期待できる。

# 補足資料



# 素材とメカトロニクスの総合企業

## 【会社概要】(09.3月末)

創 立: 1907年11月1日

設 立: 1950年12月11日

本 社: 東京都品川区大崎一丁目11番1号

ゲートシティ大崎ウエストタワー

資 本 金 : 196億9,423万円

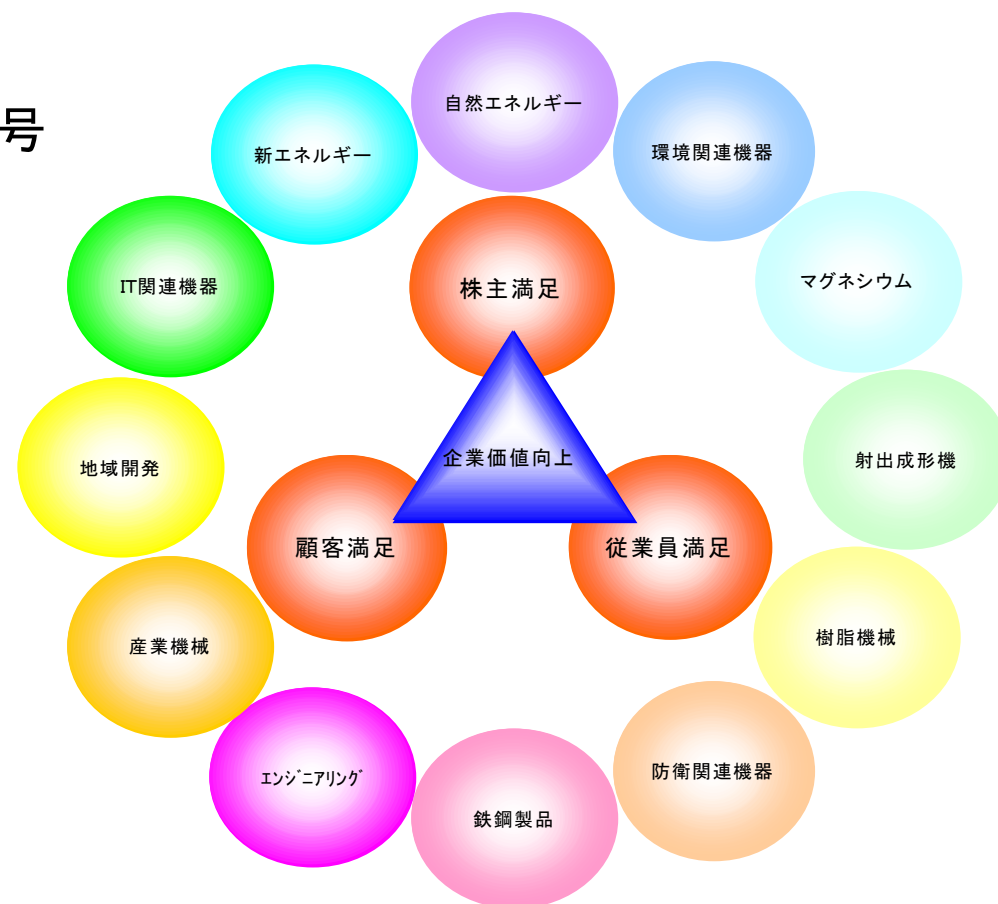
従業員数: 連結: 4,852名

: 単体: 2,039名

発行済株式総数: 3億7,146万3千株

系 列: 三井系(二木会)

兵器の国産化を目的とした準国策会社として、北海道炭鉄汽船、英国アームストロング・ウイトウォース社及びビッカース社の3社共同出資により創業



# 当社の沿革

- 1907年 北海道炭礦汽船株式会社と英国アームストロング・ウイトウォース会社とビッカース会社の3社共同出資により設立。資本金1,000万円。本社及び工場を北海道室蘭におく。
- 1920年  
～ 広島、横浜、東京に製作所を設置。
- 1938年
- 1950年 商号を(株)旧日本製鋼所と変更のうえ解散。資本金2億円をもって(株)日本製鋼所を設立。旧会社から室蘭・広島・横浜・東京の4製作所及び本店その他の営業所を継承して新発足。
- 1983年 横浜製作所を移転。デミング賞実施賞受ける。
- 1991年 広島製作所にて樹脂機械関連技術開発センター完成。
- 1992年 東京製作所跡地に府中インテリジェントパーク竣工
- 1994年 ISO9001・9002の認証を取得。
- 1998年 ISO14001の認証を取得。
- 2003年 室蘭製作所にて14,000トン鍛造プレス竣工。
- 2007年 創業100周年を迎える。



# 鑄鍛鋼部門：発電所に活かされる当社技術

火力・原子力発電に於ける日本製鋼所の位置付け ～発電用鉄鋼部材(パーツ)の製造～

日本製鋼所



鋼塊：鍛鋼製品の素材(写真は世界最大600t鋼塊)



鋼塊を鍛錬・熱処理・旋盤加工等の加工を行い、製品に仕上げる(写真はプレス機を用いた鍛錬作業)

製品例



原子炉圧力容器部材(パーツ)



発電用タービン・発電機軸材

重電各社

三菱重工業

APWR

東芝・WH

AP1000

AREVA

EPR

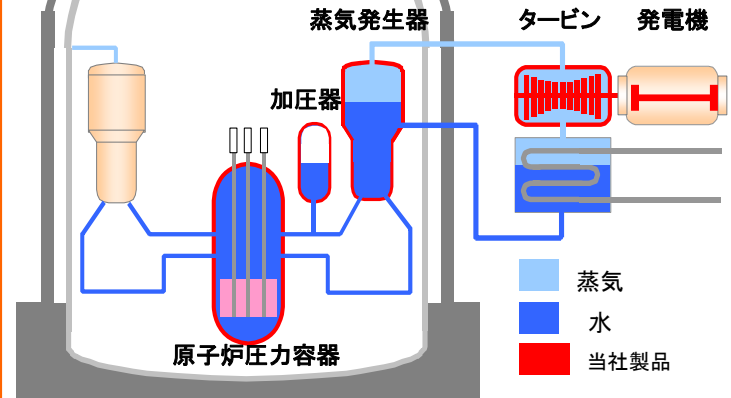
日立・GE

ABWR・ESBWR

電力会社

一次系(蒸気発生)

二次系(発電)



発電所の仕組み(加圧水型原子力発電の例)

# 鋼板・鉄構部門：石油精製用圧力容器の需要拡大



フィンランド向けリアクター

合計:3基/3,854トン 長さ:52.6M、外径:4.5M 肉厚:264mm

## 石油精製用圧力容器の主な用途

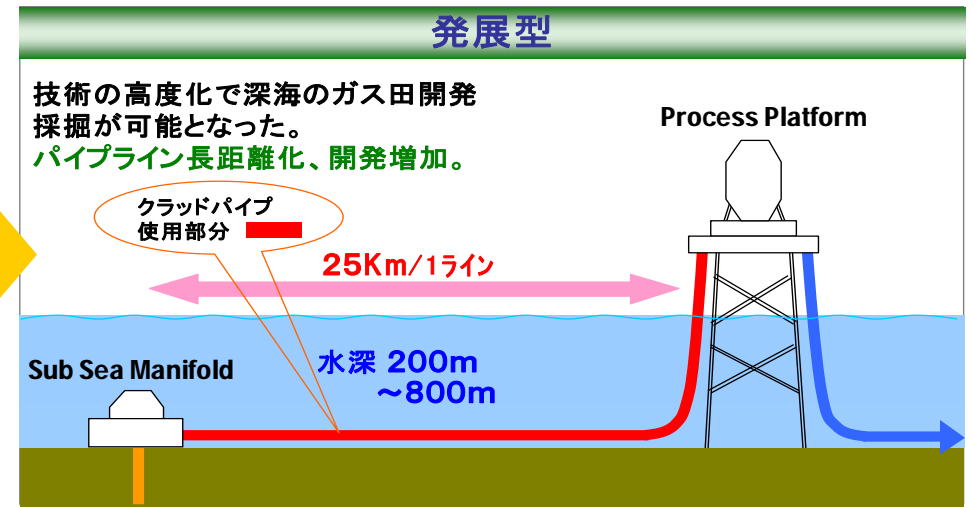
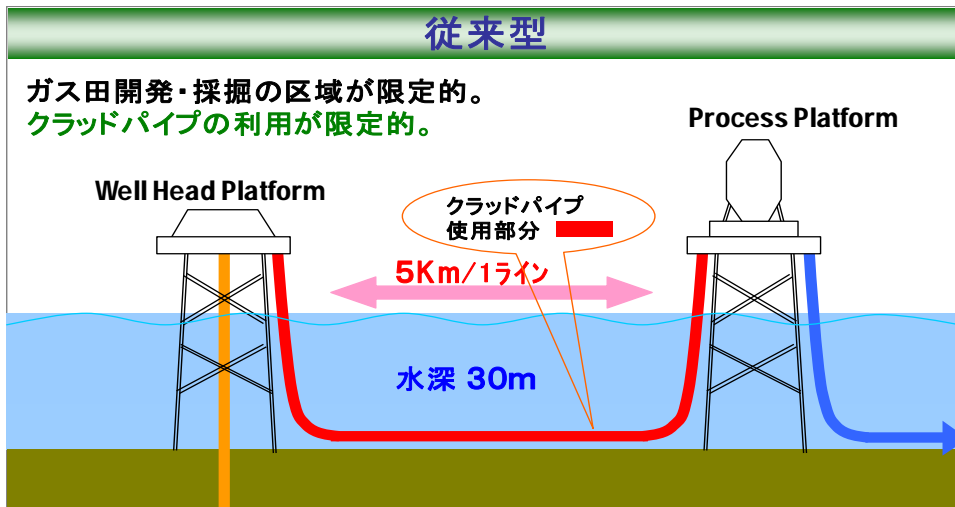
重質油を高温高圧下で水素添加し、触媒反応により脱硫又は軽質化すること。

## 当社製品が評価されている理由

- ① 材料から組み立て溶接までの一環した生産体制と品質保証体制を有している。
- ② 高温高圧に耐えうる高品質・耐久性を保持した製品を世界に供給している。

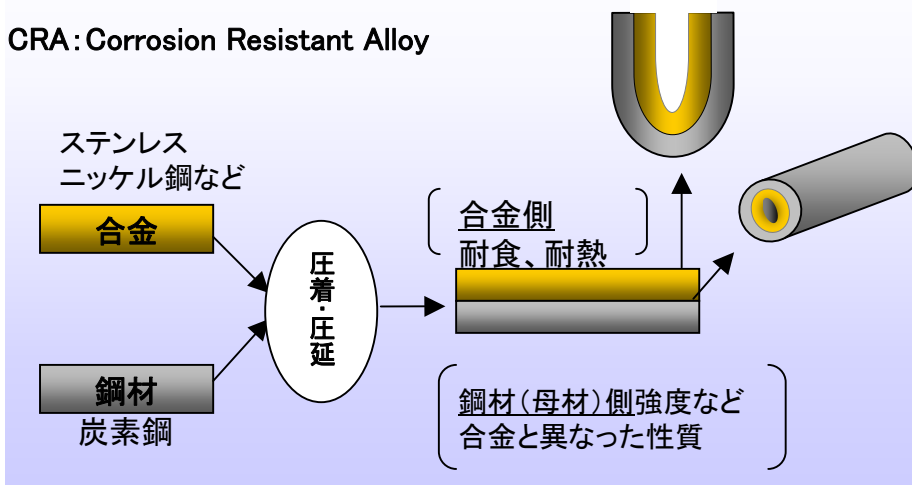
# 耐腐食性材料クラッド鋼管（CRAパイプ） -天然ガス田開発需要拡大-

## 天然ガス田開発



## クラッド鋼板（鋼管）とは

CRA: Corrosion Resistant Alloy



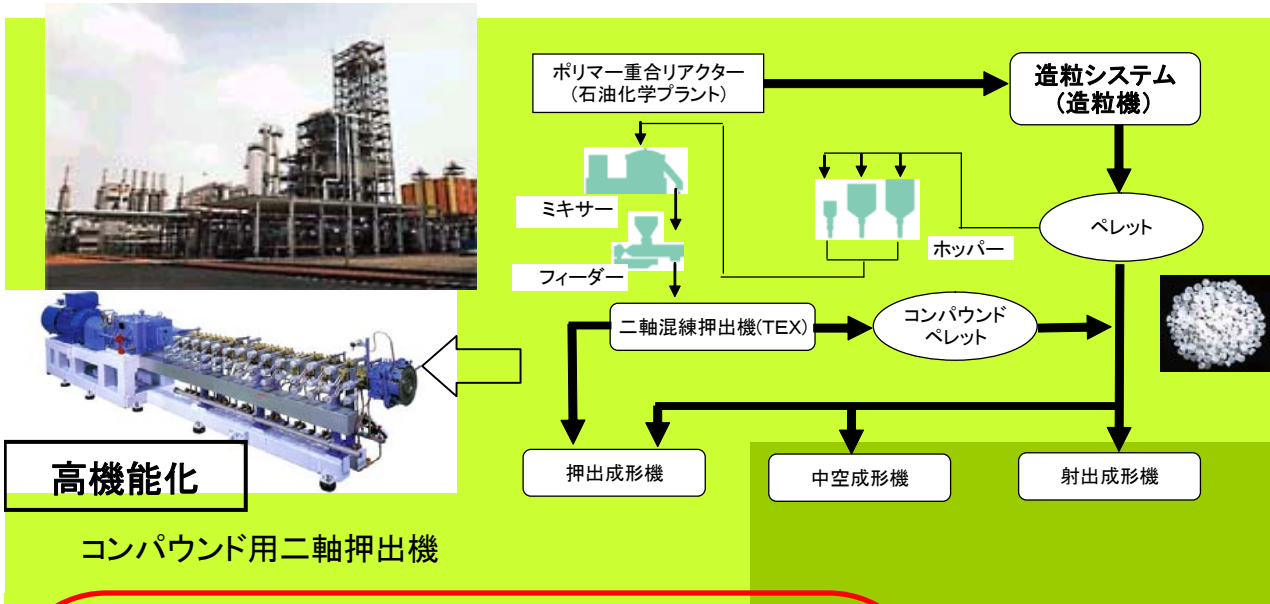
## 1. 当社技術・製品の特徴

- (1) 安定した圧着・圧延技術、多様な製法
- (2) 長尺、大口径鋼管の製造が可能(大型プレス導入済)
- (3) 材料開発に関する高度な技術

## 2. クラッド鋼管の市場動向

- ① 天然ガスの世界的な需要増加(石油から天然ガスへの移行)に伴い、石油会社は天然ガス田の開発に注力している。(インドネシア、マレーシア、豪州、中東)
- ② CRA Line Pipeの需要全体は増加傾向にある。この中で、クラッド鋼管の潜在需要は拡大傾向にあり、開発案件の大型化が進んでいる。
- ③ 既存プラットフォーム、既存パイプラインを利用した新規ガス田の新規開発推進(パイプラインの取替・延長工事)

# 世界最大のプラスチック総合メーカーとして、 樹脂製造機械から加工機械までをフルラインアップ



高機能化

コンパウンド用二軸押出機



超大型化

超大型造粒機

## フィルムシート製造装置



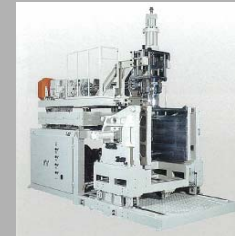
液晶用光学フィルム・シート製品



一般包材料



4種6層ガソリタンク



中空成形機



医薬品・化粧品用容器



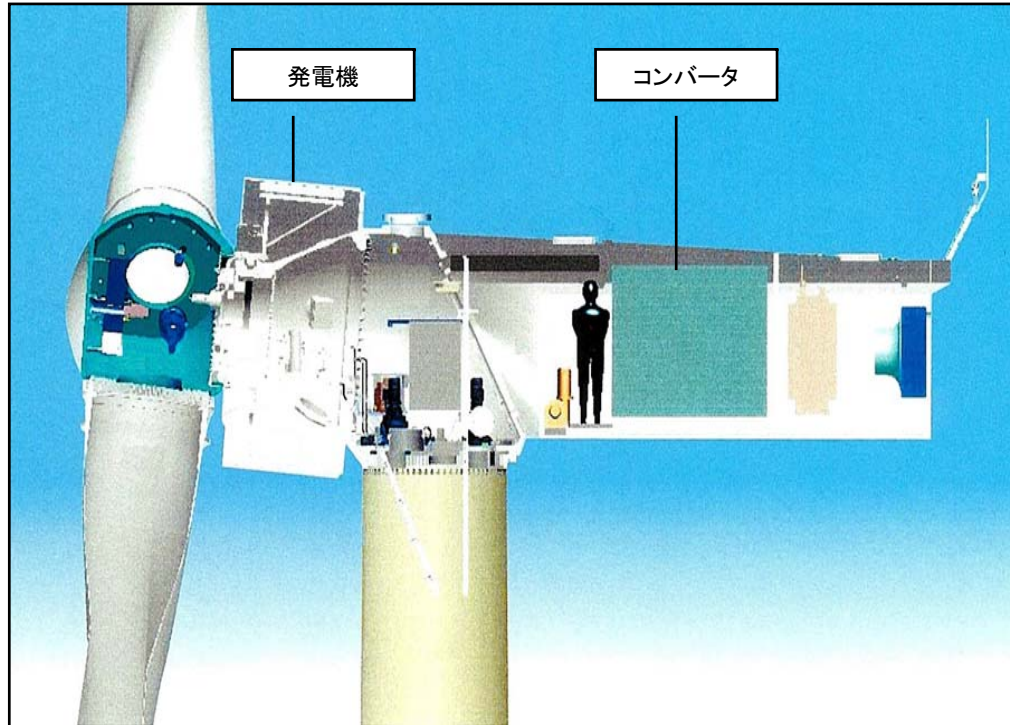
射出成形機



自動車・液晶TV用部品

# 風力発電機器事業の展開

- 増速機を使用しない構造の採用により、高効率、低騒音、高信頼性を実現 -



風力発電機J82の構造



島根県江津市に設置した風力発電機J82(11基)

## J82の特徴

同期発電機の採用により増速機を無くすことにより、

- ① 風力エネルギーの増速ギアによる損失を無くし効率向上
- ② 主要な騒音源である増速機が無いことによる低騒音化
- ③ 安定しない日本の風況に適合、信頼性向上

を実現。

## 日本製鋼所の風力発電機器事業への取り組み

- ・ 01.3期に事業参入、外国製風力発電機の輸入及びタワーの製造を開始。
- ・ 06.3下期からブレードの製造を新たに開始。
- ・ 07.3期から、自社設計による風力発電機の製造・販売を開始、現在に至る。
- ・ 10.3期は100基/年、11.3期は150基/年の生産体制を構築する。

# 2009年3月期連結決算参考資料

(単位:百万円)

	03.3	04.3	05.3	06.3	07.3	08.3	09.3実績
<b>経営成績</b>							
売上高	134,268	136,309	158,274	173,353	207,138	220,851	227,113
営業利益	5,813	6,394	7,721	12,876	24,678	32,475	36,633
経常利益	3,000	4,558	6,210	11,770	23,459	30,864	35,949
当期純利益	831	2,000	3,284	6,586	12,515	17,484	16,034
一株当たり当期純利益	2.23	5.39	8.70	17.57	33.71	47.10	43.19
株主資本当期純利益率	1.6	3.7	5.7	10.7	17.7	21.8	18.3
売上高経常利益率	2.2	3.3	3.9	6.8	11.3	13.9	15.8
<b>財政状態</b>							
株主資本	50,880	54,540	57,461	65,853	75,621	85,231	90,125
株主資本比率	29.3	30.3	31.1	33.5	32.5	32.4	30.3
一株当たり株主資本	137.00	146.86	154.59	177.19	203.09	228.93	242.13
<b>キャッシュフローの状況</b>							
営業活動によるキャッシュフロー	9,928	8,232	7,291	5,854	35,630	42,040	26,319
投資活動によるキャッシュフロー	△1,888	△2,791	13,611	△6,534	△9,679	△24,765	△33,148
財務活動によるキャッシュフロー	△5,283	△5,959	△11,918	△5,307	△16,750	△8,571	10,614
現金及び現金同等物期末残高	15,613	15,142	24,111	18,179	27,472	36,133	39,904



## JSW 日本製鋼所

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。  
また、本資料に記載された将来予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素が含まれております。  
当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。